

# 生涯学習認定制度実施要綱

一般社団法人薬学ゼミナール生涯学習センター

## 1.目的

薬剤師の資質を向上するために継続的な学習機会を設けることを研修実施の目的とし、研修によるスキルミックス薬剤師の育成とその支援を行うことを当研修制度の目的とする。

## 2.組織・運営

本制度の運営と維持にあたるため、薬学ゼミナール生涯学習センター（以下、当センターと記載）に「研修企画委員会」ならびに「研修運営委員会」および「認定評価委員会」を置くものとする。また、本制度の運用が適正に行われているかの評価を行うために「事業評価委員会」を設置するものとする。

- (1)「研修企画委員会」は、研修プログラムの企画を行うものとする。
- (2)「研修運営委員会」は、研修の運営と広報活動を担うものとする。
- (3)「認定評価委員会」は、認定薬剤師申請の申請書類が、認定評価基準に適合するかの評価を客観的に行うものとし、委員は外部へ委託するものとする。
- (4)「事業評価委員会」は、本制度の事業評価を行う外部委託組織として設置し、年次評価や事業評価を委託するものとする。

## 3.研修の区分

- (1)当センター主催および共催の講習会・研修会、当センターの認定評価委員会が審査し承認したe-Learningによる研修
- (2)他機関（プロバイダー）主催および共催の講習会・研修会、他機関（プロバイダー）が承認したe-Learningによる研修
- (3)グループ研修（レポート提出）  
認定薬剤師（指導者）や他の医療従事者を含む少人数で行う研修会を指す。  
\*事前に受講単位認定請求書の申請が必要となります。
- (4)自己研修（レポート提出）  
当センターが指定した研修プログラムやテキストによって、個人が自宅等で学習を行うことを指す。また、薬剤師認定制度認証機構が認証するプロバイダー以外の機関が実施する研修等に参加し、その研修プログラムの概要とレポートを当センターに提出し、その内容が研修企画委員会で適切と認められる場合にも自己研修とみなす場合がある。
- (5)学会参加
- (6)学会発表・・・学会名、発表日、演題名、要旨提出
- (7)論文発表・・・学協会等が発行する雑誌の論文の別刷り等を提出
- (8)その他

#### 4.研修の単位基準

生涯学習認定制度における研修毎の単位基準は、次のとおりとする。

- (1)当センター主催「講習会・研修会」は、90分につき1単位とする。「当センター指定e-Learning研修」は、想定学習時間90分につき1単位とする。
- (2)「グループ研修」は、90分につき1単位とする（事前申請が必要）。
- (3)「自己研修」は、自己学習の240分につき1単位とし、時間の積算（60分0.25単位）を認める。
- (4)「学会参加」1学会あたり、他機関（プロバイダー）が認める学会で認定・更新申請時ともに年間6単位までとする。
- (5)「学会発表」は、1演題につき1単位とする。
- (6)「論文発表」は、1論文につき2単位とする。
- (7)その他、申請があれば「認定評価委員会」にて審議するものとする。

#### 5.認定薬剤師の新規認定

●認定薬剤師の認定要件は、次のとおりとする。

- (1)4年以内に40単位を取得するものとし、毎年5単位以上を取得するものとする。
- (2)薬剤師認定制度認証機構が認定した機関（プロバイダー）が発行した認定薬剤師研修単位は、当センターの認定単位として認めるものとする。
- (3)薬学ゼミナール生涯学習センター発行の単位を20単位以上取得する。
- (4) e-Learning研修の1日の取得単位が6単位以下。
- (5)同一研究会の重複受講による単位取得は、累積単位として認めない。
- (6)特別な事由により所定の単位を取得できない認定希望者については、期間の延長を認める。

●認定薬剤師の認定手続きは、次のとおりとする。

上記の要件を満たした方は、認定薬剤師研修手帳（認定薬剤師申請書・研修記録・履歴書）、薬剤師免許証のコピーならびに認定審査料等<sup>\*</sup>を当センター宛に提出すること。

- (1)認定評価委員会が提出された申請書類が認定評価基準に適合するか判定を行う。
- (2)審査判定は、単位を満たしているだけでなく、研修記録の考察（※学習により得られた内容）も審査対象とする。
- (3)報告書に基づき審査を行い、適格と認められた方に「認定薬剤師証」を発給する。
- (4)認定の日付は原則として申請書面上の申請日とし、次回の更新（3年後）はこの日から起算する。なお、申請日以前に取得した単位は、次回更新の際の単位には充当されない。

※認定審査料および手数料

- ①初回認定および更新の際の審査料とも10,000円とする。
- ②手数料（郵送料、IDカード発行料等）は2,000円とする。ただし、IDカードの発行が不要な場合、申請時に申し出ることにより手数料を500円とする。（別途振込手数料）

- ③再交付の際の手数料は10,000円とする。
- ④審査料および手数料は当センターに納入するものとする。

## 6.認定薬剤師の更新

認定薬剤師証の有効期間は交付日から3年間とし、更新は3年毎に行う。

なお、更新を行わない場合は、資格を喪失したものとみなす。

認定薬剤師の更新時の要件は、次のとおりとする。

- (1)3年以内に30単位以上を取得すること。毎年少なくとも5単位以上を取得しなければならない。
- (2) 薬剤師認定制度認証機構が認定した機関（プロバイダー）が発行した認定薬剤師研修単位は、当センターの認定単位として認めるものとする。
- (3) 薬学ゼミナール生涯学習センター発行の単位を5単位以上取得する。
- (4) e-Learning研修の1日の取得単位が6単位以下。
- (5)同一研究会の重複受講による単位取得は、累積単位として認めない。
- (6)特別な事由により所定の単位取得できない方については、期間の延長を認める。
- (7)更新申請の受付期間は、認定日の前後1ヶ月（計2ヶ月間）とする。

## 7.認定取消の条件

認定薬剤師として認定された後であっても、次のいずれかに該当する場合には認定評価委員会にて審議し、認定を取り消すことがある。

- (1) 日本国の薬剤師資格の取り消しがあった場合
- (2) 薬剤師としての名誉を傷つけ、犯罪または不正行為があった場合
- (3) 不正な手段で認定証を受けたことが判明した場合
- (4) 上記のほか薬剤師として著しく不適正な行為のあった者

附則：本実施要項は、令和5年4月1日から施行する。

本実施要綱改定経過 平成23年4月1日設定  
平成24年9月13日改定  
平成25年10月30日改定  
平成28年3月9日改定  
平成28年10月1日改定  
平成31年1月1日改定  
平成31年1月1日改定  
令和2年4月1日改定  
令和4年4月1日改定  
令和5年4月1日改定